

解答

一

- 問一 A ウ B イ C ア
問二 すっかり夢中
問三 目
問四 ウ
問五 ウ
問六 イ
問七 ① そうした作 ② その静かに

二

- 問一 A エ B オ C ア D カ E ウ F イ
問二 自分ひとりの時間
問三 ウ
問四 絶えず何か
問五 自分が見る目を育てていないから
問六 エ
問七 自分を外から眺める能力
問八 自分がどう思っているか、を書く
問九 ア

三

- 問一 ア ひんばん イ 明確 ウ 全盛 エ おおげさ オ とりこ
問二 イ 非科学的な人たち
問三
問四 エ
問五 耳
問六 楽
問七 きちんとデ
問八 ウ
問九 科学が浸透した（社会）
問十 科学離れの問題は科学の楽しさを押しつける悠長な姿勢では解決できない。現代では科学を避けることは難しく、科学から目を背けることは不利益であり、社会にとって危険だということがこの本の意見である。

解説

一

問五 本文のはじめから傍線部4を含む段落にかけて、寝付けないわたしは偶然手にした本にすっかり夢中になった様子が描かれています。翌日、サトル叔父さんに興奮しながら本の面白さを伝え、お互いにうれしくなり、ひとしきりその本について語りあっている姿から、選択肢ウがもっとも適切です。

問六 傍線部5の前にある「こんな具合に、」～「思いを馳せた。」の部分にどのような人々との出会いのことが述べられています。ここから選択肢イがもっとも適切であることがわかります。

二

問六 傍線部4は、「よくわかんない」というのは映画が悪いんだ、と考えるようになってきた。ことについて間違いであると指摘しています。直後には「自分が勉強不足だということもあるんですね。」という一文があり、映画を観るために勉強しなきゃいけないことがわかるので、選択肢エが選べます。

問九 空欄Xが「歳をとっても、ちっとも大人になっていない人も、世の中に大勢います。」という直前の一文を受けていることと、「問題のない社会」になっていくためにはどのような人が必要なのかについて考えると、選択肢Aがもっとも適切であることがわかります。

問七 次の段落に着目すると、自然の猛威から人間の命を救うことは可能であり、科学的な知識を持っていることが、身を守る力になると述べられています。科学的な知識の内容として「きちんとデータを分析し、そこから予測し、次の手を打つこと」が人類の力なのだと主張していることから、最初の五文字「きちんとデ」を抜き出します。

問八 傍線部6を含む段落にある「津波が来ても、防波堤があるから大丈夫」という言葉を信じた人は、「津波」について知ろうとせず、「科学」を忘れているといえます。防波堤という言葉の印象で処理し、安全の確保や何メートルの津波が想定されているのかについて考えない姿勢から、選択肢ウが選べます。